



Dr. J. M. Thomason

Professor, University of Newcastle,
Newcastle upon Tyne, United Kingdom

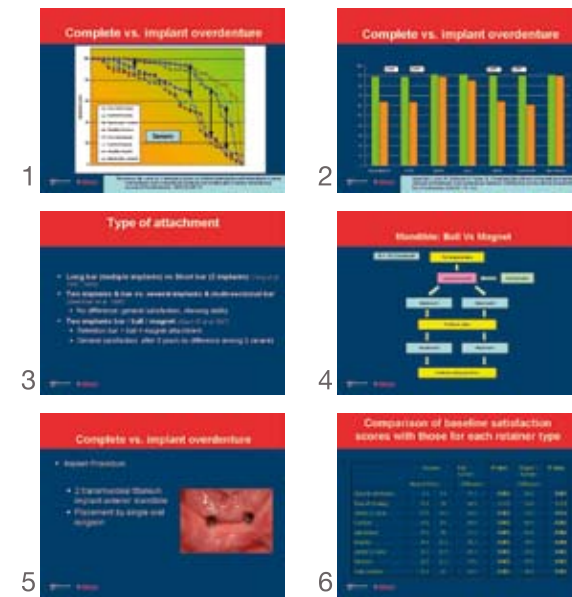
短期的な患者満足度では、動かず噛めるボール式が優位。
しかし長期予後観察が今後の重要課題。



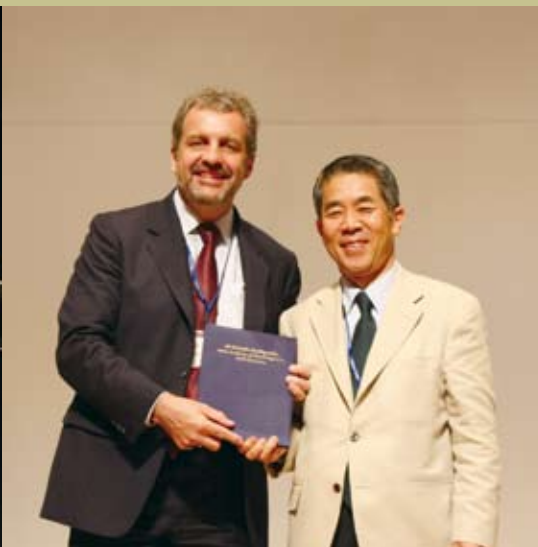
インプラントOVDの患者満足度は、予想通りインプラント無しの従来義歯と比較して、格段に大きい満足度を得た。
また、初期の3か月間に限った患者アンケート結果で、義歯の動揺の少なさ、咬合能力、噛み心地の点で、ボールの方が満足度が幾分大きかった。
しかし、長期経過の臨床の見地からの予後調査は今後の重要な観察ポイントであり、適用症例も加味した総合的な評価が今後の課題である。

S03

Patient satisfaction with two designs of implant supported removable prostheses ; ball attachment and magnets



Symposium



Dr. In- Ho Cho

Professor, Department of Prosthodontics,
Dental School, Dankook University, Korea

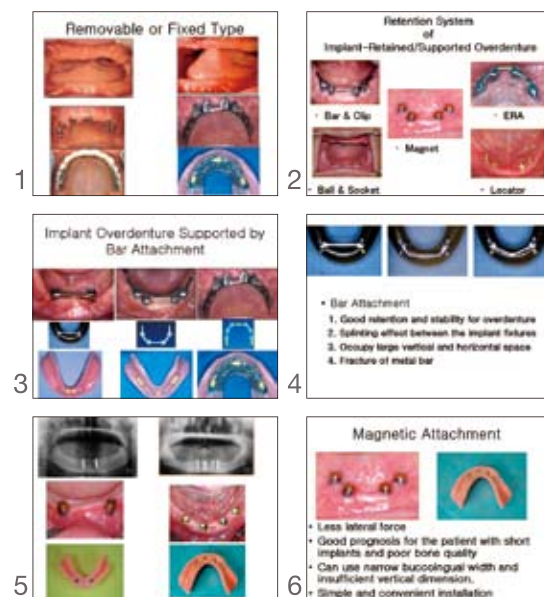
顎骨の状態が良くない場合は磁石が第1選択肢。
把持機能付磁石の開発を要望したい。



インプラントOVDの維持装置として、最近実用化され進化を遂げている磁石式と、ボールやバーの機械式の維持装置の長所・短所を比較した。生体に安全・安心という点においては、フィクスチャーに有害な側方力を逃がすという特長を持った磁石が非常に優れている。
一方、顎の状態が良く、リジッドに把持効果を狙った場合、機械式が有利である。症例によって、維持方式を選択することが有効であるが、磁石式でも顎骨の状態が良ければ把持機能を持った製品開発でさらなるインプラントの臨床拡大が期待される。

S04

Clinical Application of Magnetic Attachment in Implant-supported Overdenture ; Comparing Magnet System with Bar System



Dr. Kiyoshi Koyano, DDS. PhD

Professor and Chairman, Section of Removable Prosthodontics,
Faculty of Dental Science, Kyushu University, Fukuoka, Japan

ドーム式磁石・クッション式磁石はストレス解消に加え、
義歯動揺解消にも効果確認

以前研究発表した、インプラントOVDの維持方式別の応力実験比較では、ボール式・バー式と比較すると磁石式は側方力に対する応力は最小で好結果を示したが、義歯の動揺が最大であるという結果を示した。
今回は、その発表以後に開発されたドーム式・クッション式磁性アタッチメントも加えて、前回同様、咬合モデルでのストレス、義歯の動揺評価実験を行い、ストレス最小の磁石式が義歯の動揺も小さくなっていることを確認できた。
つまり、ドーム式・クッション式では、その付加機能が咬合時の義歯の動きを吸収しているということである。



S05

Biomechanical evaluation of implant-supported mandibular overdentures with magnetic attachments